

## 音声訳を考える

### ページを読む場合の注意点

デイジー図書ではページを指定すると、指定したページに瞬時に飛ぶことができます。その利点を生かすには、ものによってはページの読み方を注意しなくてはなりません。

目次でページを読んだ項目は、そのページに飛ぶことができるわけですから、目次のページと本文で読み始めるページは同じでないと混乱します。

しかし、目次にコラムなどがある場合、本文中でも、そのページに来たら読み始めるとは限りません。一区切りしたところでコラムを読み始めたら、目次とは違うページで読み始めることになる場合もあります。また、コラムだけを各章の後にまとめて読む場合もあるでしょう。

例えば、目次では「〇〇・・・(コラム)・・・12ページ」とあっても、コラムを読み始めるのが、本文を15ページまで読んでから、12ページのコラムを読み始める場合は、目次のコラムのページも12ページではなく15ページに訂正して読みましょう。

また、(第〇章〇〇の項参照)といったケースも、今まではページなどをわざわざ付け足して読むことはしていませんでしたが、デイジー図書の利用を考えると、今後は、ページを入れて読むことが必要になります。

索引を読む場合も、ものによっては索引のページを変更して読む場合があります。索引の語句も、コラムなどと同様、索引のページで読まないケースがあるからです。例えば、本文中の語句に限らず、図や表の説明文だったり、脚注などに出てくる語句だったりするからです。この場合も実際に読み始めるページ数に変更して索引のページを読む必要があります。

また、目次からそのページの行頭ではなく、直接該当の項目に飛べるように制作した場合で、なおかつ、索引がある場合は、索引のページをすべてチェックする必要があります。

デイジー図書の場合、これまでの録音図書の作り方から、使い勝手を考えた様々な作り方ができますが、小説など前後に飛んだりして聴くことがほとんどない本もあれば、ものによっては、ガイドブックなどのように必要などころに頻繁に飛んで聴くようなものまで、いろいろあります。原本の内容や利用のされ方を想定した作り方に習熟していく必要があるといえます。

(清水)

## 第3回

### 校正のチェックポイント

#### (4) A面 B面はじめの無録音について

各面はじめと終りの無録音はカセットにダビングするために必要です。A面のはじめ20秒 B面のはじめ5秒は無音でなければなりません。

録音のボリュームを0にして、20秒 5秒を作ってください。

ボリュームを0にしないと、黙っているつもりでも音が入って、機械はその音を認識してしまいます。

終りの3秒は、梓アナウンスの後、スタジオの中で3秒間音をたてないようにしてください。

#### (5) 訂正について

訂正のないMOを作るのが理想ですが、なかなかそうはいきません。

訂正をするときは、訂正個所のボリューム、読むスピード、前後の間など十分注意してください。

前後を通して何回か聞いて声の調子、ボリューム、読むスピードを合わせてからはめ込みます。はめ込んだら必ず前後を通して聞いてください。

脱行、図の説明を変えるなど、長さが変わってしまう時は、カットして読みますが、カットしたりつなげたりすることに自信がない時は職員に相談してください。

A面は45分以内、B面はA面より30秒以上短くしてください。

読みすぎて時間がオーバーした時はカットして読みすぎた分を捨てなければなりません。テープのように音を消しただけでは駄目です。

カットした不必要なファイルを必ず捨ててください。

(捨てる方がわからなかったら職員に相談してください。)

訂正個所を聞くことが出来るのはページ編集者です。

ページ編集者は、訂正個所の不具合を間をあける、ちじめる、ボリュームを合わせるなどして直しますが、その場合、不具合の個所を校正表にあげて読み手に返してください。

MOがそのままだとカセット利用者にはそのまま行ってしまいます。

つづく

## デジ編集をはじめる(その2)

前回に続き、デジ編集を始めるための準備について紹介する。また、後半では表題「デジ編集をはじめる」からはかなり話が飛んでしまうが、最近のトピックとしてデジマルチメディア図書の編集ソフト LPStudio Plus の講習会(財団法人日本障害者リハビリテーション協会 デジ研究センター主催)に参加する機会を得たのでその様子などについて紹介する。

(「2. デジ編集を始めるための準備」のつづき)

### 2.3 パソコン以外の機材の準備

パソコン以外で必要と思われる機材の推奨機種例を一覧表で示すが、音源として使用するカセットテープの状況等によっては不要なものもあるので、それぞれの状況に応じて選択のこと。

編集用各種機材(推奨例)

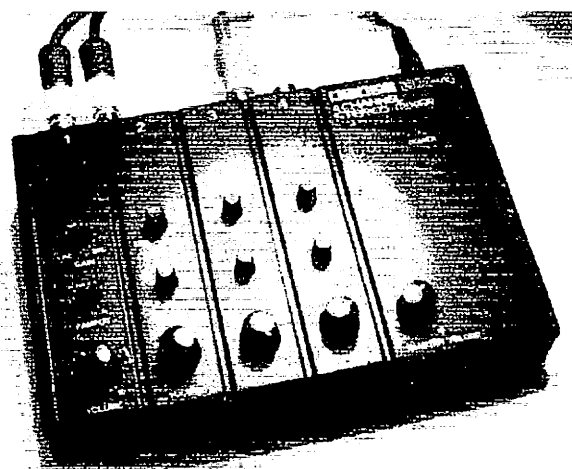
機 器	型名(メーカー)	仕様等
ステレオカセットデッキ	TC-RX1000T(SONY)	2倍速再生可、定価 ¥39,800
4チャンネルミキサー	BX-4(ボス)	¥14,000(電源 PSA-100P、¥2,000 含む)
コピー用 CD-ROM 増設	INFRA52XAL/J(Creative)など	ATAPI、52倍速(¥5,480)
トーキングブックプレーヤ	TK-300(シナノケンシ)	プレクスター(¥39,800)
CD-R ラベルプリンタ	CP-200X(エキスパートマグネティクス)	フルカラーインクジェット印刷、報映産業(¥126,000)

#### (1)カセットデッキ

2倍速再生により効率的にカセットテープからパソコンに音声を取り込む(テープ転送する)。しかし、2倍速再生が可能なカセットデッキは意外と機種が限られている。

#### (2)ミキサー

カセットテープの録音レベルが異常に大きかったり、または逆に異常に小さかったりするケースが稀にある。しかし、カセットデッキのライン出力(再生出力)レベルはコントロールできないようになっている。また、パソコンのボリュームコントロールだけでは適切な録音レベルに調整できない場合がある。このようなときにはカセットデッキのライン出力をミキサーを介してパソコンに取り込むことにより適切な録音レベルを得ることができる。パソコンに取り込むのはモノラル音声なので簡単なミキサーで充分である。なお、カセットデッキのイヤホン出力はボリュームでレベルを調整できるが、音質等の面で問題がある。



4チャンネルミキサー-BX-4(ボス)

#### (3)CD コピー機

編集、デジ校正、訂正が終わりデジ図書(CD)が完成すると貸出し用として2~3枚 CD をコピーする必要がある。専用のコピー機(DP-1000、報映産業、¥95,000 など)もあるが、コピーを作成する頻度も少ないので、編集用パソコンを購入する際、そのうちの1台に内蔵の CD-ROM を増設しておき、コピー機も兼ねるようにしておくのがよい。パソコンを購入したときインストールされている CD-R 書き込みソフトのコピー機能を用いて複製することができる。

#### (4)トーキングブックプレーヤ

デジ図書は専用のプレーヤで再生し、校正される。プレーヤはシナノケンシ製のプレクストーク KT-300、KT-300B(バッテリー内蔵)とビジュエイド社製のビクターダ800CP(バッテリー内蔵)などがある。最近の CD-ROM は裸の状態ですべて CD ドライバーに装着して用いるのが一般的であるが、プレクストークは CD を

CD キャディと呼ばれるケースに入れて用いる。そのため、取り扱いや郵送時に CD の記録面にダメージを与える心配がない。

#### (5) CD-R ラベルプリンター

CD メディアへの書名等の印字についてはどのような項目をどのような文字サイズで印字するかについての基準がある。CD-R ラベルプリンターを用いてホワイトレーベル CD-R に直接これらの項目をインクジェットでプリントすることができる。しかし、筆者が所属するボランティアグループではまだ油性マジックペンで手書きしている。

#### 2.4 消耗品

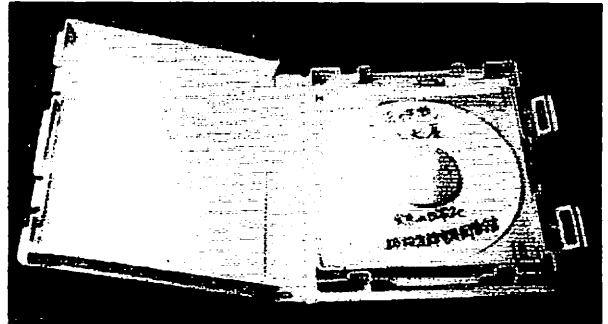
完成したデジータ図書(CD)はプレクストークに挿入するためのシャッター付きの CD キャディに装着し、郵送ケースに納めて送付される。

CD キャディ: ¥180~¥200(最小単位50個から)

郵送ケース: ¥180~¥200(最小単位50個から)

いずれも、全国視覚障害者情報提供施設協会事務局(日本ライトハウス盲人情報文化センター内、電話: 06-6441-0015)または株式会社大活字(電話: 03-5282-4361)で取り扱っている。

プリンタブルなホワイトレーベル CD-R(650MB)が1枚¥50程度、CD-R(700MB)でも1枚¥60程度で買えるようになった。



CDを装着したCDキャディを納めた郵送ケース

#### トピックなお話・LPStudio Plus 講習会に出席して

筆者は4月25日~27日の3日間、財団法人日本障害者リハビリテーション協会主催の上記講習会に参加させていただいた。LPStudio Plus で作成した図書は従来同様プレクストークなどのトーキングブックプレーヤーで聞くことができるほか、パソコン等を用いると画面にテキスト(活字)が表示され、読み上げられる音声のフレーズに同期してテキスト(活字)部分がハイライトされる。また読み上げるフレーズに関連した写真や図なども同期してポップアップ表示する事もできる。また、常時表示しておきたい画像はテキスト画面に貼り付けておくこともできる。表示される活字を大きくしておけば、弱視の方の読書を支援することができるし、ハイライトされる活字に同期して将来点字ディスプレイに表示できるようになればさらに視覚障害者の読書環境の改善につながるものと期待される。まさにマルチメディア図書の到来である。

しかし、このようなマルチメディア図書を効果的に編集するためのパソコン環境としては OS や CDライターなどまだいろいろな制約があるようだ。4月初めにこのような制約をクリアしたパソコン(IBM-NetVistaA40、Windows2000Professional)他のデジータ製作機器1式を財団法人日本障害者リハビリテーション協会から貸与していただき、この新しい環境下で LPStudio Plus を用いたマルチメディア図書を製作するための講習会が東京・新宿にある日本障害者リハビリテーション協会デジータ研究センターで開催された。実際にパソコンで作業をしながら9人が3日間講習を受けた。このような講習が4月から7月にかけて10回に分けて開催されるそうだ。講習を受けたのはほとんどが各図書館の職員の方で、ボランティアの方は少数だったようだ。延べ88人の方が受講すると聞いた。

今回貸与していただいたデジータ製作機器には LPStudio Plus のほか以下のような貴重な編集ソフトがインストールされている。マルチメディア図書を含むデジータ図書をパソコン上で再生するための LP Player、またプロジェクトごと音声データの帯域圧縮方式を変換(PCM→mp3、ADPCM また逆に、mp3、ADPCM→PCM など)できる DAISY2.0 Audio Data Converter、障害者の方自らがデジータ図書を製作できるように操作を音声で誘導してくれるデジータ編集ソフト My Studio PC などである。

また、近日、この LPStudio Plus を改良したデジータ編集ソフトが Sigtuna3.0として登場するそうだ。しかし、マルチメディアデジータ図書の普及には画像に関する著作権の問題など今後クリアしなければならぬ課題もあるように思われる。現在の Sigtuna2.017 は非常に完成度の高い編集ソフトだと思う。Sigtuna2.017 を基本により多くのデジータ図書を作成しながら、新しいものにも挑戦していきたいと思っている。

(つづく)

(テーブルライブラリーにしのみや 鳥生次郎)

## 上手な家庭録音のすすめ

第10回

## 1 反響音をいかに減らすか

まず、家庭録音で一番気になるのは壁などの反響音でしょう。反響音のひどいテープはお風呂場で読んでいるように聞こえます。カラオケなどでは反響音（エコー）を効かせた方が気持ちよく歌える（？）でしょうが、録音図書では言葉がはっきりせず聴きづらい図書になります。この反響音を減らすには、

- 1) 部屋の周りの反響音を減らす
- 2) 反響音を極力録音しないようにする

の2つの方法があります。

1)の方法は録音する周りに軟らかいものや、机の上に軟らかいものを敷いて反響音を吸収させます。ガラスや障子、固い壁などは音をよく反射しますので、こうした部屋では周りに布などをかけるだけでも反響音をかなり減らすことができます。

2)の方法は録音する時にボリュームを出来るだけ絞る事です。しかし、ボリュームを絞っても実際に読んでいる声が小さく録音されては困ります。声はしっかり（再生音が-4に届いている程度。デジタルでは-6に届いている程度）録音されなくてはなりません。その為には、まずマイクと口との距離を近づける事です。マイクと口との距離が仮に40センチから20センチ（半分）に近づくと、音量は4倍になります。音量が大きくなる訳ですから、その分、録音ボリュームを絞ることが出来ます。録音ボリュームを絞ることができれば、当然、周りの雑音や反響音は小さく録音されることになるのです。しかし、あまり近づきすぎると、後で述べますがいろいろなトラブルがおきてきますので、20センチ前後で調整してみましょう。

もともと声量がなくて、思うようにボリュームを絞れない人は、電池式のマイクを使用するのもよいでしょう。ダイナミックマイクロホンより安くて感度がいいからです。最近の例ですが、最初、お風呂場で読んでいるような録音でしたが、マイクを電池式に変えたら、途端に反響音が減り、きれいな録音になったケースもありました。

しかし、電池式のマイクは電池が減ってくると雑音が発生したり、音量が急激に下がったりするトラブルも多発しますので、2、3ヶ月で定期的に変えるなどの注意が必要です。

## 利用者から製作依頼を受けている原本

『「みおつくし」とその後』佐藤寿美子著<詩歌>  
『地下水 合同歌集』<詩歌>  
『歌集真珠市』佐藤寿美子著<詩歌>

以上のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。初めてのグループの方は何か5分でも結構ですから録音したものをご持参下さい。録音についてのチェックと共に、必要があれば録音技術のアドバイスをさせていただきます。

## 今回引き受けて頂いた 原本とグループ

『デリシャス』創刊号 世界文化社 <雑誌>	24の瞳
『あなたにも超能力がある マーフィーの成功法則』	ICCB
『エイリアン邪海伝』	ICCB
『歌集 風の牡丹花』	テープライブラリーにしのみや
『魔犬召喚』	泉大津 あめんぼ
『今日における福音宣教 説教を中心にして』	ICCB